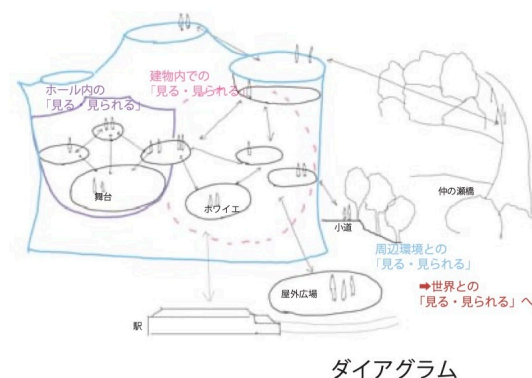


1. 設計の理念と考え

設計の理念は、『だれもの舞台・世界の舞台 ～「見る・見られる」の重層化～』とします。

訪れるだれもが自由に過ごし、表現し、感じられる場をつくりまします。従来のコンサートホール空間での「演者と観客」という関係性にとどまらず、だれもが表現者でもあり観客でもあるような「だれもの舞台」をつくりまします。

また、文化系エリア・震災メモリアル系エリア・広場エリアの分野を超えた偶発的な体験を促し、本施設の潜在的な特徴を補完し建設目的を強固にします。



ダイアグラム

①「見る・見られる」の関係性

従来のコンサートホール空間においては、演者と観客、或いは観客どうしの「見る・見られる」関係性が臨場感や一体感を高めます。この関係性に注目しました。

②「見る・見られる」をホール外へ拡張
ホール内にとどまらず、ホール外側のホワイエや広場空間に「見る・見られる」空間をつくり、だれもが表現者になれ、訪れた人が偶発的に他者の表現に出会える場をつくりまします。また、文化系エリア・震災系エリア・広場系エリアの相互間に「見る・見られる」関係性をつくり、分野を超えた体験をうみます。

③「見る・見られる」のさらなる拡張

さらには周辺環境との間や、中ノ瀬橋との間にも「見る・見られる」の関係性を拡張し、周辺を散策する人々が気軽に立ち寄り、遠くから本施設を見た人の視線をひきつけます。

2. 設計を進める上で特に留意すること

①空間構成

大ホールコアと、小ホール+リハーサル室からなるコアをつくり、ふたつのコアから床をせりださせて必要な機能や室を配置しました。バルコニーのようにせりだした空間は、互いに「見る・見られる」関係をうみます。またホワイエや屋内広場をみおろすようになり、ホワイエや屋内広場はまるでホール外部の舞台のようになります。

③外観デザイン

外観も同様のルールでデザインしました。コア上からスラブをせりださせ、そこからドレープのように流れるガラス屋根によって浮遊する舞台のような特徴的な外観としました。

④構造設計上の留意点

ふたつのコアは、強度的・音響的な観点からコンクリート造とします。

建物内部のバルコニー状の床は、コンクリート片持ちとします。視覚的に圧迫感がないよう極力薄く見えるデザインと構造強度上の安全性を両立させるよう検討をしていきます。

建物外壁はガラスのカーテンウォールとし、方立によって支持します。

建物の屋根は、コアの上に楕円上のスラブを配置し、そこからドレープ状のガラス屋根を設置します。浮遊感のあるデザインと構造強度上の安全性を両立させるように検討をすすめます。

構造設計担当者と綿密に相談・検討していきます。構造設計担当者は、デザインと安全性の両立や新しい構造のありかたに関して、豊富な実績と研究経験を持っています。緊密に連携をはかり設計をすすめます。

⑤設備設計上の留意点

床が浮遊しているデザインであるため、設備配管の配置に留意が必要です。現状では、可能な限りふたつのコアの周辺に水回り等を配置するようにしています。また地上階には、極力設備スペース等を配置せず、地下に配置することで、地上階の広場のような雰囲気を保とうとしています。

設備設計担当者は、公共建築物、地域コミュニティ施設の実績実績が多くあります。緊密に連携をはかり検討をすすめます。

⑥音響設計上の留意点

大ホール天井は、天井中心部の音響反射板からドレープ上に広がるデザインとしました。落ち着きと広がりを感じさせるようなデザインを意図しています。建物全体のデザイン手法としています。ドレープの形状は柔軟に変更できるため、音響設計上の観点から、専門家と綿密な連携をとり、適切な形状を検討していきたいと考えています。



アイソメトリック図

②多様で偶発的な表現の場

例えばホールでの講演のない日に、学生がホワイエで演奏しそれを偶然居合わせた人や震災企画展を見に来た人が体験します。ホールとストリートの間のような、気軽な表現の場がうまれます。たくさんのバルコニーで様々な活動がされているのがよく見え、偶発的に興味をもったり立ち寄りしたりする動機づけとなります。

3. コスト縮減に関する提案

- ・LED照明、人感センサー、昼光利用センサーを採用し、電気エネルギーコストを削減します。
- ・自然光の利用により、照明コストを削減します。
- ・西側壁面はガラスではなくコンクリート壁が多く、西日に対する空調エネルギーコストを削減します。
- ・雨水を雨水貯留槽にため、散水やトイレ排水などに利用し、水道コストを削減します。
- ・各室は様々な用途に対応しフレキシブルな組み合わせで使用が可能です。様々な利用に対応できるため、施設運営コスト縮減に寄与します。

4. 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

- ・大ホールと小ホールが構造上も動線上もわかれているため、片方ずつの改修が可能となります。運営しながらの改修に対応します。
- ・ホール以外の各室も、異なる床面に分散して配置されているため、室ごとの部分的な修繕も、運営しながら可能です。段階的な計画に則った修繕を可能にします。

5. 階別延床面積

3f	6,198 m ²
2f	14,564 m ²
1f	9,037 m ²
b1f	2,201 m ²
計	31,987 m ²